



Kaiho. anzen

発行: 大日本土木安全協力会
東京都新宿区西新宿6-16-6
☎(03)5326-3772(直通)

令和3年4月

No.135

全国安全週間

2021 7/1~7 準備期間 6/1~30



最優秀賞 中日本支社 今井 徹 作品

「ヒヤリ」で済んだその時に

しっかり摘み取れ危険の芽

最優秀賞 中日本支社 戸田洋平 作品

大日本土木(株)・大日本土木安全協力会



2021年度安全衛生管理計画推進に向けて

大日本土木安全協力会 名誉会長
取締役専務執行役員 櫻井 俊介

ご安全に！

安全協力会会員の皆様には、平素より当社の土木・建築などの事業推進に格別のご支援とご協力を賜り、また安全協力会の活動においても、労働災害防止に格別のご尽力をいただいておりますことを篤く御礼申し上げます。

当社が掲げる「環境・安全・品質方針」は、『大日本土木は、「安心をつくり続ける。」を企業理念とし、信頼に応える安定した企業経営を続け、確かな技術と品質で、世界中の安心な暮らしを支える。』としています。

2021年度の安全衛生管理計画は、安全目標は、「死亡・重篤・公衆災害 ゼロ」、特に前年度はクレーン災害や解体構造物の倒壊事故が発生し、重点項目として「三大災害（墜落・転落、建設機械・クレーン災害、倒壊・崩壊災害）の防止」を掲げております。

2017・2018年度に発生した墜落による死亡災害は、その教訓を忘れず今年度も最重要課題として墜落・転落災害に取り組んでいきます。当社作業所では、2022年1月完全施行となる墜落制止用器具の法改正を前に、5mを超える高所作業におけるフルハーネス型安全帯の使用を徹底いたします。当社と安全協力会会員の皆様がともに力をあわせて労働災害防止活動を推進していきしょう。

また、衛生目標は、「疾病労災 ゼロ」重点項目として「作業環境の整備・改善（新型コロナウイルス感染症予防対策、熱中症予防対策等）」と「働き方改革の推進」に取り組みます。

さて、当社ならびに安全協力会会員各社の主戦場である建設市場の状況を見てみると、COVID-19（新型コロナウイルス）国内外まん延の影響等もあり、（一財）建設経済研究所の建設投資見通し（2021年1月）によれば、2020年度は63兆3,500億円で前年度を下回る水準に（△3.1%）、2021年度は61兆8,000億円で前年度と比べて微減（△2.4%）と予測されております。

コロナ終息後、特に民間分野での景気回復が期待されますが、どんなに厳しい市場環境下でも、競争に負けないよう、会員各社の皆様と大日本土木が手を携え、「安心をつくり続ける。」ために、今日と違う、明日を拓きともに成長していきましょう。

今後、国の施策であるCCUS（建設キャリアアップシステム）の普及により、施工体制台帳、現場配置技術者、作業員名簿の電子化が進み、工事管理体制が見える化されていきます。私たち安全協力会も国の施策に倣って体制の改善に注力致します。工事管理体制のこれらの仕組みは、建設現場で働く技術者の地位向上に繋がり、当社と安全協力会各社の生産性向上に必ず寄与するものと信じより一層の取組をお願いします。

結びになりますが、今年こそ皆で力をあわせてゼロ災を達成しましょう。年度当初にあたり、会員各社の益々のご繁栄を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

ご安全に！



新事業年度を迎えて

大日本土木安全協力会
本部長 佐々木 邦衛

ご安全に！

新事業年度に当たり、安全協力会会員の皆様には、日頃より安全協力会に対し格別なご支援とご協力を賜っておりますこと、合わせて本部及び各支部の事業計画と、労働災害防止活動に対し、一方ならぬご尽力とご協力を頂いておりますこと、また、昨年度は「新型コロナウイルス」により予定通りの事業計画と労働災害防止活動の運営とは行きませんでした。日頃のご協力に対し、心より御礼と敬意表す次第です。今年度も変わらぬご支援とご協力の程、宜しくお願いを申し上げます。

昨年度の世の中の動きは、ここで改めて申し上げるまでもなく、国内外を問わず「新型コロナウイルス」「変異ウイルス」等により、人々の生活や行動までが制限されと言った、「緊急事態宣言」が多都府県に発令され、特に関東1都3県では、その宣言が解除されることなく、逆にその更新をも余儀なくされた厳しい状態が続くことと相成ってしまいました。今年度に延期となっています「東京オリンピック、パラリンピック」も今のところは予定通り開催の見込みとの事ですが、コロナワクチンとその接種が早期に普及され、コロナウイルス防衛の処置がスムーズ講じることで開催が実現にこぎつけられる事を心から願うばかりです。

我々の建設業界も多分に漏れず、高齢化、未経験、未熟練工、外国人労働者に頼らざるを得ない、相変わらずの人手不足と、コロナウイルス下の真只中では在りますが、是非実効性のある安全衛生管理により、感染者を未然に防ぎ各作業所が滞ることなく無事安全に繋がりますよう、安全協力会会員の皆様のご協力の程宜しくお願い申し上げます。

ご存知と思いますが、昨年度の安全成績は、残念ながら大きな事故はともかく相変わらず「ヒューマンエラー」と言われる、まさに一つ間違えればと言った事故が多発してしまいました。今年こそ「全員参加の先取安全」の下、無事故無災害に向かって立派な成績が上げられますよう、安全協力会会員各社のご支援とご協力を是非宜しくお願い申し上げます。

おしまいになりましたが、大日本土木株式会社の益々のご発展と「新型コロナウイルス」収束と無事故無災害を祈念して、簡単ではございますが新事業年度にむけてのご挨拶とさせていただきます。

ご安全に！



新事業年度を迎えて

大日本土木安全協力会
東京支部長 藤澤 徹

ご安全に！

新事業年度を迎え、まずは安全協力会会員の皆様には、大日本土木安全協力会東京支部の事業計画ならびに労働災害防止活動の運営に、日頃から格別なご支援とご協力を賜っておりますことを心より御礼と敬意表しますと共に、今年度もよろしくご支援とご協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます、また、一言ご挨拶申し上げます。

まず報告させていただきますが、昨年度3月末時点での安全成績は、会員皆様の安全に対する強いご指導のお陰で有休災害ゼロ、不休災害2件のみの結果でありました。本当にありがとうございました。この様な好成績の要因の一つとしまして、店社パトロールにおいて、会員皆様の立会いによりパトロールが厳格化し、緊張感を持った活動に変化した様に思えます。今年度も引き続き、強い姿勢でのご指導、切にお願い申し上げます。

さて、昨年度におかれましては、コロナ一色であったように感じられます。ワクチンが開発され、今後の効果に期待が寄せられますが、国民全員が接種終了するのは、かなり先であり、まだしばらくは新型コロナウイルスと共生すると考えられます。昨年度もお願いさせていただきましたが、「三つの密」をはじめ、感染拡大に繋がらない環境作り、自分自身が感染しないための対応を今年度もよろしくお願い致します。

幸いにも大日本土木東京支部管轄での感染者は、若干発生したとの報告を受けておりますが、作業所閉所までは至っておりません。会員皆様の日ごろからのご指導のお陰であり、改めまして厚く御礼申し上げます。

昨年度の活動内容ですが、新型コロナウイルスの影響で、支部総会の中止、それに伴う安全協力会事業承認の書面決議の実施、安全協力会役員のコミュニケーション不足等、計画通りの活動が遂行出来ませんでした。しかし、そのような環境下においてもパトロールの実施、安全指導啓発、職長会助成等といった継続的な側面活動を実施してまいりました。この様な厳しい環境だからこそ、会員各社に対し、協力会として、安全衛生におけるやるべきこと、やれるべきことを積極的に実施して参りますので、皆様からのご要望をお願い致します。

建設業界におきましては、新型コロナウイルスの影響で建設投資に影響を及ぼしております。アベノミクスによる建設投資は緩やかに上昇しておりましたが、昨年度の新型コロナウイルスの影響で特に民間の建設投資が減少する見込みであるため、大変厳しい状況に立たされております。また、様々な社会環境の変化から「働き方改革」「キャリアアップシステム」への対応も図っていかねばなりません。大日本土木も新たな中期経営計画が出されたとのことです。会社と一体となり、中期経営計画を達成することが、この厳しい環境を打ち破ることとなり、魅力ある建設業界を構築すると考えられます。皆様の更なるご尽力をお願い致します。

最後になりますが、新事業年度を迎え、会員の皆様におかれましては、より一層の安全衛生活動を推進して頂くことをお願いし、大日本土木株式会社ならびに会員皆様の無災害達成、また、有効な新型コロナウイルス感染対策の実施により重症者ゼロをご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

ご安全に！



新事業年度を迎えて

大日本土木安全協力会
名古屋支部長 森屋 泰則

ご安全に！

令和3年度を迎えるにあたり名古屋支部長として一言ご挨拶申し上げます。

名古屋支部会員の皆様には、事業運営及び労働災害防止活動に日頃から格別のご支援を頂いております事、ここに厚く敬意を表しますと共に本年度も引き続きのご協力の程をお願い申し上げます。

昨年は言葉では表現出来ない1年でした。「非常事態宣言」という悲しい単語が私の人生の経験になるとは想像すらしていませんでした。皆様に於いても同様だったと思われます。1日も早く事態が終息する事をただ祈るばかりです。

しかしながら建設業の「非常事態」はこれからが本番だと思われます。工事量は減少傾向が見られ、受注競争も激しくなっている様に思います。10年前の辛い時代がまた繰り返されるのではないかと危惧してしまいます。そして残念ながらその様な時代は「安全第一」が形骸化してしまいがちです。そうならない様に安全協としても積極的に「安全第一」の本質を大日本土木様と共に死守したいと考えております。基本的ですが、パトロールを中心とした安全啓蒙活動を本年度も充実させ、昨年はなかなか出来なかった対面での情報交換・反省・前進的な協議を本年度は行いたいと思ひます。

悲観的な事ばかりは言ってられません。微力ですが目の前の問題を解決する努力は必要です。その一つとして昨年も取り上げましたが「安全衛生」を保障すべく活動はしていきたいと思ひます。具体的には昨年、モニター式検温器を名古屋支部として購入し、各現場に配置してもらいました。評判は良いと聞いて喜んでおります。その他にも現場で作業される皆様にとって少しでも安全・安心に寄与出来る事案が有れば積極的に導入していこうと思ひますので、御要望が有ればお聞かせ下さい。

個人的には一つ心残りが有ります。昨年は盛大に表彰されるべき優秀な作業員様の晴れ舞台が有りませんでした。形式的には行いましたが、やはり安全大会と言う大舞台で皆様からの大きな賞賛を是非感じて頂きたいと思ひます。その時感じた事が今後の安全意識の向上に繋がるものだと信じていますので、今年こそは開催したいと思ひています。

最後になりますが、事態が「コロナ禍」から「コロナ後」へ移行して、以前の生活に少しずつ戻って行く事を祈念すると共に、本年度も会員各位のトップが率先して「労働災害防止プロジェクト2020」の活動継続や事業主パトロールに参加して「ゼロ災」を達成すべく、改めて会員皆様のご指導・ご協力をお願いして新年度のご挨拶と致します。

ご安全に！



新事業年度を迎えて

大日本土木安全協力会
大阪支部長 山川 数也

ご安全に！

新事業年度を迎えるに当たり、安全協力会大阪支部会員の皆様には、日頃から格別にご大日本土木安全協力会大阪支部の事業運営、労働災害防止活動につきまして、ご支援を賜り、ここに厚く御礼と敬意を表すと共に、今年度もご協力の程宜しくお願い申し上げます。

令和3年度新事業がスタートしました。昨年度を振り返りますと、令和元年12月に中国武漢市で発生した新型コロナウイルスは、いまだ収まる気配さえありません。4月7日には、東京を含む7都府県に対して緊急事態宣言が出され、4月16日には、対象が全国まで拡大し、その間景気は落ち込み各種行事は中止や延期に追い込まれ、不安といら立ちが世の中を覆いました。7月には、熊本・人吉の水害は「過去最大級」となり、昭和40年に記録した浸水高さの2倍以上4.3mに達し、街は濁流にのまれ19名の尊い人命が奪われました。被災に遭われました方々にお悔やみとお見舞い申し上げます。

さて、2020年度の大阪支部の災害発生状況は、当社カウント5件、JVサブ2件、カウント外3件、合計10件の災害が発生し、4日以上休業災害は5件でした。墜落・転落災害の発生は3件でそのうち2件の墜落事故については、あと数cm、あと1歩ずれていれば、重篤災害もしくは死亡災害に繋がった可能性があった事故でした。なぜ、墜落制止用器具を使用しなかったのか残念でなりません。2022年1月からは、5mを超える高所作業において、フルハーネス型墜落制止用器具の使用が義務付けられます。墜落・転落による事故を未然に防ぐように、十分対策をとっていただきたいと思います。

新型コロナウイルス感染拡大となった2020年。建設業において官公庁工事は堅調に推移したものの民間工事は事業収益の悪化で設備投資の工事計画の延期や見直し、規模縮小など厳しい状況となっています。中長期的には、防災・減災対策を重点的に進める国土強靱化で公共工事の増加が見込まれています。また、「ポスト2020」として、2025年開催予定の大阪万博やIR（総合リゾート）など大型案件も控え、新型コロナで先送りされていた工事の発注など、総じて堅調な推移が見込まれています。

また、建設業の将来の担い手を確保するため「育成」「働き方改革」「処遇改善」「生産性向上」などに取組む必要があると思います。特に「処遇改善」については、適切な賃金水準の確保や社会保険への加入徹底、建設キャリアアップシステムの普及・活用を進めていきたいと思っています。建設業における労働災害防止の主役は、事業者と現場で働く皆さんです。働く皆さんが不幸な災害に遭わないように、自主的な安全衛生活動を実施することが何よりも重要だと考えております。

結びになりますが、大日本土木株式会社並びに会員皆様の無災害達成、社業の益々のご繁栄、ご健勝とご多幸を祈念致しまして新事業年度の挨拶とさせていただきます。

ご安全に！

作業所における安全衛生管理のための重点管理事項具体的な内容

作業所は、元方事業者としての統括管理義務を遂行する

- 1) 作業所長の確実な統括管理の遂行
 - ① 労働安全衛生法、社内基準に則した作業所ルールの確立と周知徹底
 - ② 安全管理の3原則（整理整頓・事前打合・現場点検）の推進
 - ③ 指定危険作業、予定外・非定常作業時における事前打ち合わせの徹底
 - ④ 作業手順書周知会の指導確認
 - ⑤ 建設キャリアアップシステム、グリーンサイトを活用した労務管理
- 2) 墜落・転落災害の防止
 - ① 墜落制止用器具の適切な装着、確実な使用の徹底
 - ② 足場、開口部、作業床（端部）からの墜落防止設備の先行設置確認
 - ③ 開口部・スラブ端部の養生計画、実施状況の確認
 - ④ 足場管理体制図の確実な運用
- 3) 建設機械・クレーン災害の防止
 - ① クレーンの転倒事故防止
（クレーン作業計画を順守、過負荷防止・巻過防止等の安全装置を有効に保持、定格荷重を超える荷重をかけて使用しない）
 - ② 立入禁止、接触防止措置の確認
（重機作業計画による機種を選定・設置地盤の事前確認・資格の確認、指揮命令系統の明確化）
 - ③ 「バックホウ作業においては原則後退禁止」、「それ以外の重機作業では誘導合図なしでバックしない」の周知徹底
 - ④ 重機作業における死角体験教育・誘導訓練教育等の実施
- 4) 崩壊・倒壊災害の防止（土止め支保工・型枠支保工・解体作業・はい作業）
 - ① 建築物の解体工事は事前調査に基づく解体工法・作業順序・控えの設置方法等、リスク低減措置を盛り込んだ施工計画及び作業手順の作成・実施の徹底
 - ② 緊急・異常時体制の確立及び教育・訓練の実施
 - ③ 地盤の事前調査、掘削法面作業は作業開始前点検の励行
- 5) 公衆災害等防止
 - ① 周辺状況（地盤、埋設物、架空線、近接構造物、飛来・落下物等）の事前調査と災害防止対策の作成・実施
 - ② 第三者災害防止対策の実施状況確認（作業区画境界、特に出入り口）
 - ③ 交通事故防止のための指導・確認
- 6) ヒューマンエラー、不安全行動に起因する災害防止
 - ① 6S運動「整理・整頓・清潔・清掃・しつけ・しつこく」の推進
 - ② 労働災害事例教育、ヒヤリハットの情報共有による労働災害要因排除
・作業手順の改善
・安全設備の充実、見える化

協力会社の自主管理能力の向上促進

- (1) 事業者責任の遂行
 - 1) 作業所安全衛生活動の積極的参加
 - 2) 作業所で決められたルール、安全指示の順守
 - 3) 当該作業所に合致した確実な送り出し教育の実施

- (2) 安全施工サイクル活動の展開
 - 1) KYミーティングにおける安全唱和の実施
 - 2) 不安全行動排除のため、一声かけ運動、一人KY、現地KY、ヒヤリハット、グーパー運動の積極的推進（コミュニケーションの充実）
 - 3) 保護具の完全着装の実施（ルールを守らない者に対する再教育の実施）
 - 4) 指定危険作業の事前打合せの実施

- (3) リスクアセスメント（危険性又は有害性等の調査）を取り入れた安全作業手順の作成・周知（特に、指定危険作業）

- (4) 非定常・予定外作業（作業内容変更時等）の教育等安全管理の徹底

- (5) 再下請負人の管理
 - 1) 再下請負人の適正な選定、単独作業にならない配置と管理指導（指示伝達事項の確実な周知徹底）
 - 2) 二次以降協力会社の安全衛生・環境管理協議会の参加
 - 3) 社会保険未加入事業者の排除
 - 4) グリーンサイトを活用した労務管理の実施
 - 5) 建設キャリアアップシステム技能者登録の推進と就業履歴の確実な蓄積

- (6) 職長会の充実

- (7) 労災上積み保険の加入促進

- (8) 安全協力会、パートナー会の活動推進

2021年度 環境安全衛生行事計画表

(2021. 4. 1～2022. 3. 31)

所属 月	本 社	支 社 ・ 支 店	作 業 所
4	安全祈願 春の全国交通安全運動(4/6～15) 本社安全衛生委員会 本社品質保証・環境保全委員会	安全祈願 春の全国交通安全運動(4/6～15) 支社・支店安全衛生委員会(毎月) 支社・支店品質保証・環境保全委員会	安全祈願 春の全国交通安全運動(4/6～15)
5			
6	全国安全週間準備期間(6/1～30) 日建連 災害防止対策特別活動(6/1～30) 環境月間(6/1～30) 安全衛生大会 中日本支社 (6/11) 西日本支社 (6/17) 東日本支社・海外支店 (6/18)	全国安全週間準備期間(6/1～30) 日建連 災害防止対策特別活動(6/1～30) 環境月間(6/1～30) 安全衛生大会 中日本支社 (6/11) 西日本支社 (6/17) 東日本支社・海外支店 (6/18)	全国安全週間準備期間(6/1～30) 日建連 災害防止対策特別活動(6/1～30) 環境月間(6/1～30) 安全衛生大会 中日本支社 (6/11) 西日本支社 (6/17) 東日本支社・海外支店 (6/18)
7	全国安全週間(7/1～7)	全国安全週間(7/1～7)	全国安全週間(7/1～7)
8	電気使用安全月間(8/1～31)	電気使用安全月間(8/1～31)	電気使用安全月間(8/1～31)
9	全国労働衛生週間準備期間(9/1～30) 防災の日(9/1) 全国建設業労働災害防止大会(仙台)9/24～25 秋の全国交通安全運動(9/21～30)	全国労働衛生週間準備期間(9/1～30) 防災の日(9/1) 全国建設業労働災害防止大会(仙台)9/24～25 秋の全国交通安全運動(9/21～30)	全国労働衛生週間準備期間(9/1～30) 防災の日(9/1) 全国建設業労働災害防止大会(仙台)9/24～25 秋の全国交通安全運動(9/21～30)
10	全国労働衛生週間(10/1～7) 3R推進月間(10/1～10/31) 本社安全衛生委員会 本社品質保証・環境保全委員会	全国労働衛生週間(10/1～7) 3R推進月間(10/1～10/31)	全国労働衛生週間(10/1～7) 3R推進月間(10/1～10/31)
11	秋の全国火災予防運動(11/9～15)	秋の全国火災予防運動(11/9～15)	秋の全国火災予防運動(11/9～15)
12	年末年始労働災害防止強調期間(12/1～1/15)	年末年始労働災害防止強調期間(12/1～1/15)	年末年始労働災害防止強調期間(12/1～1/15)
1	安全祈願 年末年始労働災害防止強調期間(12/1～1/15)	安全祈願 年末年始労働災害防止強調期間(12/1～1/15) 支社・支店コスモスMR	安全祈願 年末年始労働災害防止強調期間(12/1～1/15)
2	本社安全衛生委員会 本社品質保証・環境保全委員会 社長MR		
3	年度末労働災害防止強調月間(3/1～31) 春の全国火災予防運動(3/1～7)	年度末労働災害防止強調月間(3/1～31) 春の全国火災予防運動(3/1～7)	年度末労働災害防止強調月間(3/1～31) 春の全国火災予防運動(3/1～7)
随時	本社安全衛生パトロール 社員教育、健康診断 安全論文・標語等募集 社外研修、渉外業務	安全衛生委員会(毎月1回以上) 品質保証・環境保全委員会(毎年1回以上) 安全衛生パトロール、ライン監査 社員教育、健康診断 社外研修、渉外業務	安全祈願祭 安全衛生・環境管理協議会 安全衛生大会、職長会 健康診断

2020年度 安全衛生 論文、標語、ポスター入選作品

『論文』

区 分	店	所 属	氏 名	題 目
最優秀	西日本	環境安全品質部	廣瀬 淳司	ヒヤリハットを活用した安全活動
優秀	東日本	土木工事事部	中村 壽和	安全を考える
優良	西日本	建築工事事部	加藤 真奈	労働災害防止について

『ポスター』

区 分	店	所 属	氏 名	タ イ ト ル
最優秀	中日本	土木工事事部	戸田 洋平	始業前の点検 確実に！ 現場に潜む危険を排除
優秀	中日本	土木工事事部	小林 大河	一人一人が責任者 我ら安全 OneTeam
優良	東日本	成友興業 株式会社	清水 俊幸	防ごう三大労災
優良	東日本	建築工事事部	新井 克彰	Safety First
優良	海 外	総務部 事務グループ	大槻 良子 (大槻浩 家族)	今日も一日安全作業守ります

『標語』

区 分	店	所 属	氏 名	標 語
最優秀	中日本	土木工事事部	今井 徹	「ヒヤリ」で済んだその時に しっかり摘み取れ危険の芽
優秀	西日本	土木工事事部	平林 昭夫	うまくやるより確実に 早くやるより安全に
優良	西日本	小倉商事 株式会社	中村 健一	災害は 慣れと過信と油断から 初心に戻って安全確認

ヒヤリハットを活用した安全活動

西日本支社 環境安全品質部 廣瀬 淳司

●はじめに

「完璧なんてこの世にはねえ。絶対どこかで歯車がかみ合わなくなる。そのまま無理矢理動かして、何もかもだめにするか、一度リセットし正常に戻し、頑張っただけだ。リセットするのがな」。これは、名探偵コナン「探偵たちの鎮魂歌(レクイエム)」の中での一言です。私たちの建設現場も完璧なものはありません。危ないと感じたら一旦止まってリセットする。その勇気が危険回避に繋がるのです。

●真実はいつもひとつ

名探偵コナンは、事件を解決して犯人を見つけます。私たちは災害が起きると原因を探します。よく似たことをしているようですが、全く違います。コナンは犯人を捜したら解決ですが、私たちの場合は、災害を起こした人や設備を探すことが目的ではありません。「なぜそのような行動をしたのか?」「なぜ設備に異常が起きたのか?」、目で見える原因だけではなく、災害の背後に隠れている真の原因、災害が発生した背景を調べ、再発を防止する事が最大の目的です。決して犯人探しではありません。犯人探しで終わったら、同じことがまた起こります。

●「リスクアセスメント」と「再発防止対策」

私たちはリスクアセスメントを行って、災害の芽を摘むことを行っています。施工計画の段階から始まり、作業手順～KYミーティング～現地KY、と作業を行う直前までリスクアセスメントをして、その日の作業に潜んでいる、災害の芽を摘む努力をしています。ですが、災害は無くなりません。リスクを真剣に考えていないのです。真剣度が足りないのです。建設現場でのリスクを真剣に考えると、死のリスクに繋がるはずで、死のリスクを考え、死亡災害を休業災害に、休業災害を不慮災害に、減災していくことが無事故に繋がるのです。

では再発防止対策はいつ考え、行っているかと言うと、災害発生後にしか行っていないのが現実です。災害が起きた後にしか再発防止を考えていないのです。災害が起きた後の再発防止対策も、同種同類の災害を起こさないためには大切なことですが、災害が発生してから考えても遅いのです。再発防止対策は、災害が起きる前、現場でヒヤリハットがあった時にこそ検討するべきものです。災害を未然に防ぐために、再発防止対策を検討するのです。

●「ヒヤリハット」を活用する

「ヒヤリハット」は事故と紙一重です。今年、労働災害防止PJ2020のなかでヒヤリハットを活用して災害を防ぐことが指示されています。現場のヒヤリハット事例を見せてもらうと、「誘導員の声が聞こえなくて、後方の人と接触しそうになった」「はしごで昇降する際、足を滑らせ落ちしそうになった」等々、一歩間違えば死亡災害に繋がるようなヒヤリハットがたくさんありました。

このようなヒヤリハットが起きたときに、再発防止対策を検討する事が災害発生防止に有効なものです。「誘導員の声が聞こえない」のなら、見える位置で誘導する、無線を使う、自動停止装置を付ける。「はしごで足を滑らせそう」なら、より安全な昇降設備を設ける、両手ではしごを持って昇降する。少し考えて、災害を未然に防ぐ対策を取ることが大切なのです。少しの改善がその後の災害を未然に防ぎます。安全な対策を取ること決して無理ではありません。一人ひとりの命が掛かっているのです。安全対策に手を抜かない事が一番大切です。

設備面と作業手順を変更したら、次は人の教育です。いくら設備を改善しても、安全な手順を考えても、人が守らなければ災害は発生します。情報を共有し、話をして理解してもらう。教育をする事が大切です。教育には信頼関係が大切です。作業員一人ひとりとコミュニケーションを取り、信頼関係を築くことがとても大切です。

私たちは「建設」という「ものづくり」をしなければなりません。「もの」を作るのは人です、まず「人」を作らなければものづくりは出来ません。「人づくり」なくして「安全」なしです。

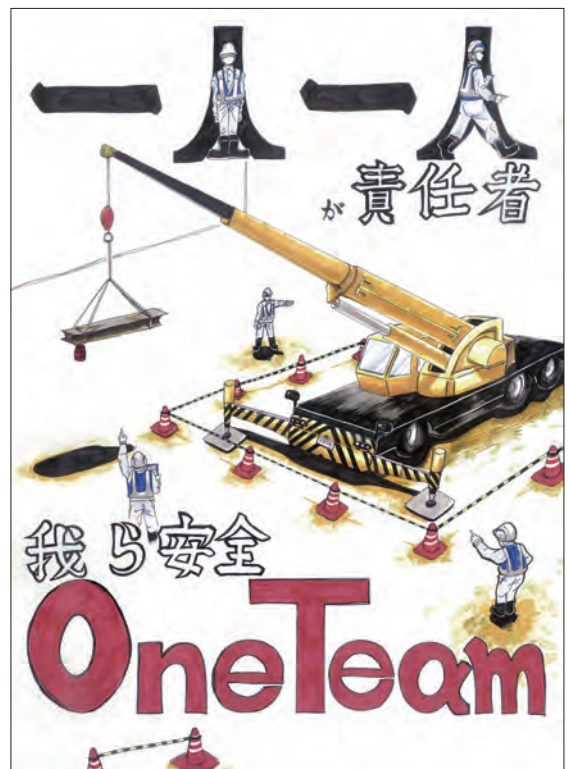
安全衛生ポスター入選作品

最優秀賞



中日本支社 戸田 洋平

優秀賞



中日本支社 小林 大河

優良賞



東日本支社 清水 俊幸



東日本支社 新井 克彰



海外支店 大槻 良子

2020年度 環境 論文、標語、ポスター入選作品

『論文』

区分	店	所属	氏名	題目
最優秀	東日本	建築工事部	大竹 晶	地球の消費者として
優秀	中日本	土木工事部	箕島 大貴	廃棄物の再利用と我々が出来ること
優良	中日本	土木工事部	坂本 光	環境に配慮した活動・提案について
優良	東日本	建築部 設備グループ	松野 凌雅	総合建設業における環境対策とは

『ポスター』

区分	店	所属	氏名	タイトル
最優秀	海外	開南株式会社	オーレリオ・クルズ	PROTECT THE EARTH FOR NEXT GENERATIONS (次世代に向けて地球を守ろう)
優秀	中日本	土木工事部	井上 仁美 (井上 真 家族)	気づいて！地球のSOS
優良	海外	総務部 総務グループ	山下 京子	命にやさしい環境を
優良	中日本	建築工事部	中島 正太郎	自然を守るために 今できること

『標語』

区分	店	所属	氏名	標語
最優秀	中日本	土木工事部	井上 仁美 (井上 真 家族)	省エネ・分別・マイバッグ 小さな習慣 環境保全
優秀	東日本	土木工事部	富田 一穂	分別は ゴミと資源の 分岐点
優良	中日本	建築工事部	篠原 功	CO2CO2 (コツコツ) 減らす温暖化 熱い地球をクールダウン

地球の消費者として

東日本支社 建築工事部 大竹 晶

「環境」という言葉が指す対象は実に幅広い。今私がいるのは空調が効いている静かな事務所で、考えながら文章を書くのに適した「環境」である。しかし一歩外に出て「環境」というものに焦点を当てると、一気に「地球環境」というマクロな世界の話になる。環境問題が語られるとき、ほとんどが後者の内容に関わるものであることは周知の事実であるが、それらは自分を日々取り巻く生活環境のように目の当たりにしやすいものではない。

例えば、熱帯地域の森林破壊が進んでいること、様々な生き物が快適な住処を失い絶滅していること、資源は枯渇すること、このままではやがて人類が地球に住めなくなること。誰もが知っているこれらの事実も、日常で意識できる機会はそう多くない。

この夏、私はそういった環境問題を身近に意識する機会があった。猛暑の日、ある職人さんとの「本当に毎年暑くなっているよ」「このまま毎年上がっていくんですかね」という会話がきっかけだった。

確かに、毎年夏になるとニュースでは「過去最高」や「例年同時期に比べ……」という言葉が飛び交うように感じる。しかし実際はどうなのだろう。そう思った私は、気象庁のHPにアクセスした。結果は、イメージ通り、変動を繰り返しながら年々上昇傾向にあるというものだった。その結果を見たとき、納得するとともに、「真夏の現場作業ができなくなる未来はそう遠くないのでは？」と疑問に思ったのだ。

立っているだけで大汗をかくような猛暑日、熱中症対策の環境を整え、繰り返し注意喚起の声掛けや作業時間帯をずらす工夫をしても、一日中炎天下で作業をする職人さんの消耗は計り知れない。今は、空調服のような有効な熱中症対策グッズで過酷な暑さを和らげながらなんとか乗り越えている状況に過ぎず、いつか必ず限界の時期がやってくる。それが数十年後だとしても、人々の営みと建設が切り離せない以上は、決して無視できない問題だと感じるのだ。

私はこれまで、環境問題を耳にしても、「ある程度は仕方ない」と考えていた。その「程度」も知らずに、どうせ地球が減びるころには自分は居ないのだからと勝手に諦めていた。過去の人々がそうして残した環境に苦しんでいる自覚もないままだったのだ。

では、私は明日から何をしよう。明日と言わず、今日、何から始めよう。

思えば、日々意識している節電や節水、節ゴミは、環境のためというより光熱費節約のためという意識であった。光熱費は消費しているエネルギー・資源に比例して払う料金が高くなっているの、結果的には環境負荷軽減につながっていたということになるが、もう少し環境も意識して見直してみようと思う。まずは、今夜のおかずの惣菜を買うときに、ごみがでにくい包装のものを選びよう。

それでは、今、現場では何を行っているだろうか。細かなところでは、可能な限りグリーン購入法適合の商品を選択していること、詰所の消灯や空調の電源 OFF を徹底していること、産廃の分別を行っていること、環境配慮型の機械類を選択すること……

こうして、いざ環境問題に関して身近にできることとなると、消費者としての「選択」が多くを占めるように思う。

そのようななか、根本的な「生産」に携わる立場である私たちは、社会において、大きな責任を背負っているのではないだろうか。特に「施工」は生産そのものであることから、建築副産物の 3R や、工事関係車両 CO2 排出量の軽減等、恒常的に取り組むべき課題が多くある。

資材の無駄を出さないこと、まとめられるものはまとめて発注すること、ごみは少なく、分別して……これらは日頃からお金の無駄を出さないようにと行っていたことであるが、身近な問題同様に、環境にも直結している事項であることにふと気付いた。

運搬費がかからない場合でも発注をすれば、その分ガソリンは消費されるし、CO2 も排出されているのである。これを些細なこととして見逃していたら、きっと何も変えることができないだろう。

当社の HP を見れば、Fun to Share への参加が表明されている。施工作品の環境負荷軽減の工夫についても知ることができる。現場事務所や詰所には環境方針も掲示している。これらを掲げている会社の一員としての意識も、ひとりひとりが持たなければならない。

社会において、消費者・生産者という立場の違いはあれど、私たちは全員共通して地球の消費者である。目に見えにくいからこそ、日々のなかで意識的に視点を持っていきたいと思う。

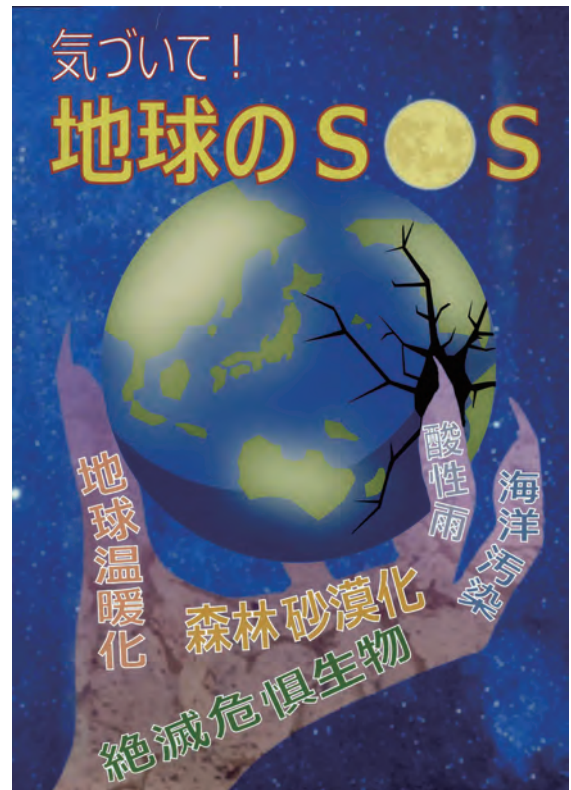
環境ポスター入選作品

最優秀賞



海外支店 オーレリオ・クルズ (開南株式会社)

優秀賞



中日本支社 井上 仁美 (井上 真 社員家族)

優良賞



海外支店 山下 京子



中日本支社 中島 正太郎

本部だより

1. 安全衛生環境パトロール

令和2年12月3日（木）に東京支部の作業所において特別パトロールを実施しました。

作業所：日野南平体育館（建築）

当作業所は、日野市発注の体育館建設工事である。工事は地下躯体部の施工で、計画的な地足場が組まれている。地中梁の埋め戻し区画では、昇降に移動梯子等を使用する為、埋め戻しまでの期間の墜落防止のルール徹底が必要である。また、京王線近接工事であるため、掲示物や型枠材料等の飛散防止を徹底し、工事エリアの整理整頓を維持し工事を進めて頂きたい。

巡視者：佐溝専務（名誉会長）、佐々木会長、藤澤東京支部長、
岡山本社環境安全品質部長（本部事務局長）、下田東日本建築工事部長、
亀井東京環境安全品質部次長（東京支部事務局長）



昼礼時安全講和（佐溝名誉会長）



パトロール参加者一同

作業所：日野推進3（土木）

当作業所は、浸水被害から都市を守る雨水管整備事業である。総延長821 m内径1,650mmの推進工事は、関東ロームの地山で地下水もなく安定しており計画的に進捗している。施工場所は住宅街であり、路面覆工の振動等で住民の苦情もあるが、その都度適切な対応を実施し問題はない。現状の施工は同じ作業の繰り返しであるが、マンネリ化することなく第三者の目を意識した安全管理を継続して頂きたい。

巡視者：佐溝専務（名誉会長）、佐々木会長、藤澤東京支部長、
岡山本社環境安全品質部長（本部事務局長）、平島東日本土木工事部長、
亀井東京環境安全品質部次長（東京支部事務局長）



昼礼時安全講和（佐溝名誉会長）



パトロール巡視状況

支部だより

東京支部

1. 安全祈願

令和3年1月18日（月）に、明治神宮にて藤澤支部長をはじめ東京支部役員（5名）と支社幹部（5名）が参加して今年一年の安全祈願を厳かに執り行いました。今年は新型コロナウイルスの影響で参加人員が制限されました。



2. 安全衛生環境パトロール

令和3年2月10日（水）に、第2回合同安全衛生環境パトロールを実施しました。藤澤支部長をはじめ東京支部役員で4班を編成し、建築2、土木2、計4作業所に対し実施しました。パトロール実施後、東京支店にて竹田支社長、建築土木各副支社長、工事部長に参加して頂き、安全協力会からの指導・要望事項等を作業所毎に班長が報告し、今後の改善に努めて頂くことをお願い致しました。



1 班：新明石住宅作業所（建築）



2 班：S 大泉増床作業所（建築）



3 班：新富下水立坑作業所（土木）



4 班：JS 小山作業所（土木）

名古屋支部

1. 安全祈願

令和3年1月23日（土）に、森屋支部長・松原副支部長・岡崎副支部長、そして支社幹部4名で猿田彦神社に今年の安全を祈願してきました。その後、伊勢神宮（内宮）にもお参りを行いました。今年は、コロナ対応のため参加人数を最小限に絞り、例年に比べ簡略しての行事となりました。



2. 安全衛生環境パトロール

令和2年12月10日（木）に、土木・建築各々1現場ずつパトロールを実施しました。

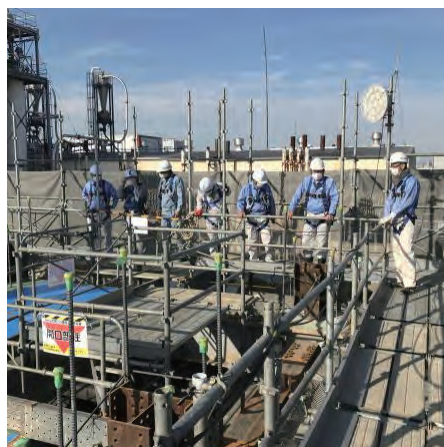
現場巡視後に行われた講評では、コロナ対策や墜落防止対策及び飛来落下防止対策などへの各現場の対応などの説明を受け、また出席者からは気づいた点を各自発表し、是正対応をしてもらうよう現場所長に指導を実施しました。

岐阜新愛岐C2作業所（土木）



現場説明・講評状況

三菱CE四日市作業所（建築）



現場巡視状況

3. 安全啓蒙活動

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、昨年6月に協力会本部からマウスガードを現場作業員に配布しましたが、一向に収まらないコロナウイルスに対し、名古屋支部として土木・建築20作業所に「顔認証タイプ検温器」を配りました。

携帯タイプの体温計だと「作業員数が多い場合検温に時間がかかる」などの声があったため、上記検温器を選択しました。作業員や発注者にも好評でした。



設置状況



高速小牧耐震作業所（土木）



検温中



津島警察庁舎（建築）

大阪支部

1. 安全祈願

令和3年1月21日（木）に、大神神社（おおみわじんじや）にて、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため人数を制限し、支社幹部、安全協力会役員と合同により今年一年の安全祈願を厳かに執り行いました。大神神社は、古来本殿は設けずに拝殿の奥にある三ツ鳥居を通し三輪山を拝するという原初の神祀りの様を伝える日本最古の神社です。



2. 安全衛生環境パトロール

労働災害の撲滅を図る為、支社安全衛生環境パトロールに参加して安全指導を行いました。協力会参加のパトロールは、コロナウイルス感染症防止対策を取りながら、延べ30作業所にて活動を行いました。

2018年にデザインを一新した白地に赤ラインの職長ヘルメットは、126個を支給し、職長と現場が一体となった安全活動、安全意識の向上に役立っています。

今後とも特別教育、重機死角体験教育、VR体験教育等を実施し、安全意識の向上に役立てて参りたいと思います。



同志社致遠館作業所（建築）



安威川道路整備作業所（土木）

大日本土木株式会社は安全協力会の皆様とともに、DNCスローガン
「今日と違う、明日を拓こう。」のもと、SDGs達成に挑戦します



世界の人々の豊かな明日を拓くために、 DNCはSDGs達成に挑戦します。

2030年までに持続可能でより良い社会をめざすため、

国連サミットで「SDGs=持続可能な開発目標」が掲げられ、

世界規模で積極的な取組が進んでいます。

私たちDNCもグローバル・サステナビリティ企業としての

責任を果たすため、企業理念「安心をつくり続ける。」を実現する

行動をSDGsと関連づけ、3つのテーマを重要課題に策定しました。

DNCのスローガン「今日と違う、明日を拓こう。」のもと、

建築と土木を通じて社員が一丸となり課題達成に挑戦します。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

DNCのサステナビリティ トップコミットメント



大日本土木株式会社
代表取締役社長

馬場 義雄

**2030年に世界がより良い場所になるように、
私たちDNCは、建築と土木を通じて人々の豊かな
明日を拓くことに挑戦していきます。**

2015年に国連で「持続可能な開発目標 (SDGs)」が採択され持続可能な社会の実現に向けて積極的な取り組みが期待される中、当社は、新しい時代への決意を「今日と違う、明日を拓こう。」のスローガンに込め、世界の人々が心豊かで健康に暮らせる社会実現のための活動に取り組んでいます。

私たちDNCの事業は世界の49の国と地域(2020年度)に展開しており、地球規模の環境問題や社会の安全安心に関わっています。グローバルサステナビリティ企業としての責任と存在意義を企業理念「安心をつくり続ける。」に表明し「確かなもの造り」を通じて環境保全とより良い環境の創造に真摯に取り組んでまいります。

また、人間尊重を理念として「コンプライアンスの徹底」「誠実な対応」「人材の確保・育成」と「マネジメントシステムの有効性の継続的改善」に努め、これまで以上に品質を磨きながら、安心、安全なインフラの構築を継続します。

持続可能な社会実現に貢献する活動に、国内外の社員が一丸となり全力で挑戦していく決意です。

DNCが取り組むSDGsの重要課題

当社は、DNCの企業理念「安心をつくり続ける。」を実現する社会課題の解決活動を、SDGsのゴールと関連付け、「地球と地域社会の安心」「環境・エネルギーの調和」「人間中心の働き方・安全な職場環境」の3つのテーマを重要課題(マテリアリティ)として確認しました。「DNCが目指す持続可能な地球の実現」のために社員一人ひとりが行動指針を共有し、SDGs達成のための活動を日々続けていきます。

DNCが目指す持続可能な地球

[スローガン]

今日と違う、明日を拓こう。

DNC 大日本土木

[企業理念]

安心をつくり続ける。

大日本土木は、信頼に応える安定した企業経営を続け、確かな技術と品質で、世界中の安心な暮らしを支える。

持続可能な開発をめざす、DNCの重要課題

地球と地域社会の安心

強靱なインフラや高品質な建設物を手掛け世界中の国々と人々と暮らしの発展に貢献します。



環境・エネルギーの調和

地球環境に配慮した材料とエネルギーを率先して開発・使用し持続可能な地球環境の保持に努めます。



人間中心の働き方・安全な職場環境

国籍・性別などを問わず個人を尊重し、あらゆる職種で安全に効率的に働ける環境の整備を行います。他業種や教育機関との連携による技術開発に取り組めます。



[行動指針]

誠実に
誠実な仕事で信頼に応え、事業の持続と会社の着実な成長につなげる。

誇りをもって
社会を支える誇りを持ち、そのための技術と品質の向上にたゆまず努力する。

挑戦しよう
夢と志を持って、世界を視野に挑戦を続け、ものづくりの喜びを追求する。

3つの重要課題・取組概要

3つの重要課題(マテリアリティ)とSDGs達成の活動を整理しました。
 今後、2030年に向けた具体的な方策とKPI(指標)を定めて活動を推進していきます。
 具体的な取組は次ページ以降を参照してください。

サステナブルな地球への事業を通じた貢献活動

地球と地域社会の安心		<ul style="list-style-type: none"> ■高度な感染症研究施設建設への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・コンゴ民主共和国 国立生物医学研究所拡充計画 ■世界の道路交通事故削減への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・海外における安全指導の実施
		<ul style="list-style-type: none"> ■小学校建設への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ギニアビサウ共和国 ビサウ市小学校建設計画 ・モンゴル国 第3次初等教育施設整備計画1期
		<ul style="list-style-type: none"> ■下水道の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・パプアニューギニア独立国 ポートモレスビー 下水道整備計画 ■「水」に係わる事業への参画 <ul style="list-style-type: none"> ・治水、河川、農業水利、上下水道事業への取組
		<ul style="list-style-type: none"> ■道路インフラへの参画 <ul style="list-style-type: none"> ・国内・海外の道路新設と改修への取組 ■施工段階における新技術の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT・CIMなどの新技術の開発と導入環境の整備 ・I-Constructionの推進による作業効率の向上
		<ul style="list-style-type: none"> ■災害時の事業継続計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・BCP計画 ■街(まち)を活性化する再開発事業への参画 <ul style="list-style-type: none"> ・住民目線での「街づくり」提案
環境・エネルギーの調和		<ul style="list-style-type: none"> ■自然と調和したエネルギー <ul style="list-style-type: none"> ・水路(農業用水)・砂防ダムを利用した「小水力発電事業」への取組 ■脱炭素社会(カーボンニュートラル)の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー事業 ■環境負荷削減への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ZEBで建物が消費する一次エネルギーの収支をゼロに ・CASBEEで環境・景観への配慮・快適性など総合的に評価
		<ul style="list-style-type: none"> ■廃棄物発生量の削減と環境保全への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・現場で発生するがれき類の建設副産物の、建設資材への再生 ■オフィスゴミの削減と環境美化への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別と再利用、リデュース活動 ・地域の清掃活動
		<ul style="list-style-type: none"> ■低炭素社会の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・施工段階並びに設計・運用段階における温暖化対策として、CO2の排出抑制値の目標を掲げ、実施
人間中心の働き方・安全な職場環境		<ul style="list-style-type: none"> ■性別・国籍を問わない職員の採用 <ul style="list-style-type: none"> ・女性が働きやすい環境整備
		<ul style="list-style-type: none"> ■労働環境の改善と向上 <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革の推進 ・セカンドライフセミナーの開催 ■AIを用いた安全性・生産性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・動体認識AIを導入した作業員の安全管理 ・AIを用いた現場管理業務の効率化 ■技術系職員の技術力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・有用な資格取得の推進 協力会社の指導・教育
		<ul style="list-style-type: none"> ■開発途上国の自立的発展の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・開発途上国の自立的発展に向けた産業・生活インフラ整備事業 ・海外途上国への技術移転
		<ul style="list-style-type: none"> ■産学連携・他業種との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・PFI事業・異業種とのパートナーシップ 公共施設の統廃合など公有地の有効活用 ■保有技術の情報公開 <ul style="list-style-type: none"> ・NETIS(新技術情報提供システム)による情報公開

環境・エネルギーの調和

地球環境に配慮した材料とエネルギーを率先して開発・使用し、持続可能な地球環境の保持に努めます。



12 つくる責任
つかう責任



■廃棄物発生削減と環境保全への取組

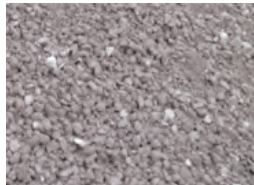
- 現場で発生するがれき類の建設副産物の、建設資材への再生



がれきの発生



がれき再生処理前



がれき再生処理後



再生利用された道路

現場から発生するがれき類は適正な再生処理施設に排出することにより、再生され再利用することができます。この活動を維持・継続し、廃棄物抑制に努めています。

東日本支社
環境安全品質部
塚越 拓



■オフィスゴミの削減と環境美化への取組

- ごみの分別と再利用、リデュース活動
- 地域の清掃活動



会社周辺の清掃活動

オフィスゴミを分別して捨てる、ミスパrintの裏紙利用、またファイルの再利用などでゴミを減らすリデュース活動を行っています。清掃ボランティアにも参加し、新宿地区の美化に寄っています。

海外支店
総務部

桐木 信嘉



2030年 達成ゴール

- ・建設廃棄物の分別率 土木施工部門85%以上、建築施工部門80%以上。
- ・分別・再利用・リデュース活動と清掃活動を通してゴミの削減と清潔な労働環境の維持を行う。

環境・エネルギーの調和

地球環境に配慮した材料とエネルギーを率先して開発・使用し
持続可能な地球環境の保持に努めます。



13 気候変動に
具体的な対策を



■低炭素社会の実現

- 施工段階並びに設計・運用段階における温暖化対策として、CO2の排出抑制値の目標を掲げ、実施



環境ポスターの募集から作品掲示による啓発活動



現場におけるCO2削減活動として省燃費運転啓発活動

《取組事例》

- ・建設発生土の場内有効利用
- ・エネルギー効率に優れた建設機械、車両の採用
- ・ZEBや省エネ建物の設計施工
- ・昼休みの消灯、エアコンの適正温度設定
- ・クールビズ、ウォームビズの推進

《目標値 2020年度》

■建築・土木部門

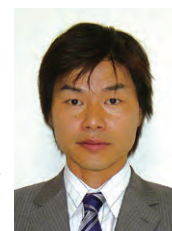
当社の施工で発生するCO2排出量
2005～2012年度の平均値を基準として、
施工高当たりの原単位 (t-CO2 / 億円) で26%削減

■事務業務部門

オフィス内での年間電気使用量の削減
2015年度値より10%削減

本社
環境安全品質部

後藤 広長



2030年 達成ゴール

- ・CO2排出量を2005-2012年平均値より30%削減する。

人間中心の働き方・安全な職場環境

国籍・性別などを問わず個人を尊重し、あらゆる職種で安全に効率的に働ける環境の整備を行います。他業種や教育機関との連携による技術開発に取り組みます。



開発途上国の自立的発展の支援

- 開発途上国の自立的発展に向けた産業・生活インフラ整備事業
- 開発途上国への技術移転



現地作業員との竣工写真 (PNG橋梁)

DNCが実施している海外建設工事のほとんどは日本のODA事業です。技術と経験を結集した質の高い施設建設を実現し、地域の経済成長・貧困削減に寄与しています。人材育成や技術移転等においても貢献しています。

海外支店
営業部

稲垣 貴士



インターンシップ受け入れ (リベリア道路)

海外支店
技術部

武藤 征行



日々の作業に於いて、日本人SV、第三人SV指導の下OJTにて技術移転を図っています。インターンシップの要望があれば前向きに受け入れを実施しています。

海外支店
建築部

矢野 博司



2030年 達成ゴール

- ・インターンシップの受入要請を100%受け入れる。